



地域住民に クラブの存在感を高めて会員増へ

長崎県大村市 三浦東老人クラブ

会員数・89名(男性・27名・女性・62名)

三浦東老人クラブは、三浦地区老連に所屬し、地区老連と共に三浦地区ねんりん運動会、小学校でのふれあい集会、地区公園の除草、登山道路の草払い、地区の氏神様の除草・清掃奉仕などに参加しています。ねんりん運動会は今年26回目、地域の60歳以上をお誘いして開催している地域ぐるみの一大イベントです。

また、毎年7月には三浦小学校生徒とふれあい集会を行っています。生徒が日頃から練習している演技が披露された後、地区老連会員による手作りの昔遊び（竹馬、竹とんぼ、水鉄砲、お手玉、ペットボトル風車など）の作り方を指導します。昼食時には、会員が各学年に分かれ、生徒たちと一緒に給食を共にして交流を深めました。帰りにはお礼として竹箒と雑巾を贈り、楽しい日を過ごしました。



ペットボトル風車を手に



昔遊びの指導

地域に クラブの姿を見せてること

設立当時は、スポーツ大会、旅行、歌を

歌ったり踊ったりと仲間がいれば楽しく、元気で自立した生活を送ることを目指して立ち上げたと聞いています。

しかし、私が入会して数年たつた平成16

を得ることができて、また強い仲間意識が生まれました。

若手の加入により 活動が広がる

若手高齢者の加入を機に、継続的な活動の一例として、今村川の河川敷の美化活動を計画しました。町内の環境保全組合と話し合い、広い土手の部分を整備して芝桜の苗を移植、年4回の除草を行っています。5月の芝桜の満開時期には、町内会にも呼びかけて2キロコースと4キロコースに区分したウォーキング大会を行うなど、地区に会員ごぞつて踊りの部に参加しました。翌年には、80年前から伝わる町内花見大会に会員ごぞつて踊りの部に参加しました。花見大会は若い人たちとのふれあいでありますます盛り上りました。これを契機に、老人クラブが地域になくてはならないものであることを会員一人ひとりがしっかりと再認識し、加入促進について総力をあげて取り組みました。

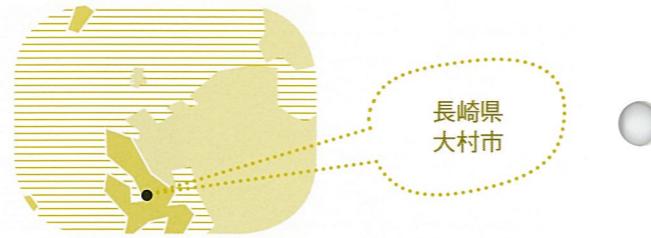
まず、「押しの誘いが必要です。平成23年には何度か加入のお願いをしていました地域にある民踊サークルの会員5名が加入され、またその人たちの勧誘で3名が加入了しました。そのように会員全員が熱心に取り組んだ結果、60歳代が2名、70歳代が8名、80歳代が2名、合計23名の新規加入者

年頃には新規加入者が少なくなり、衰退するのを感じました。入会をお誘いしても「私、ゲートボールはしません」と言われ、老人クラブはゲートボールと思われています。

ずっと続けていたお正月の門松を作る活動も若い会員がないくなつたために休止しています。「このままではいけない、このクラブをどう立て直すか」とクラブ会員全員で話し合いました。その結果「地域住民にクラブの存在感を高める」ことが第一と結論づけました。



彼岸花の植え込み
作業



今後も、会員が気をゆるめることなく加入促進に取り組み、これまで以上に、地域に必要とされる老人クラブとして、元気で、明るく、楽しく、地域に開かれたクラブづくりを目指していきたいと思います。

(会長 平石廣輝)